

No. 110

41. 11. 5 発行

発行人
佐呂間町長 船木長一郎

編集人
庶務課 広報係

印刷
佐呂間印刷

11

町村知事

冷害視察に来町

本年の全道的な冷害で、当町も大きな被害を被りましたが、町村知事は、これ等の冷害地視察のため、去る19日午後来町しました。

当日、町議会、その他関係団体が参集して、町長より冷害による被害の状況説明と、諸懸案事項の陳情をしました。



(町村知事に冷害状況を説明する町長)

知 来 官田準喜 兼朝

◎勲七等青色桐葉章 戦没者 遺族

記

戦後二十有余年、幾多の困難と斗いながら、国勢の復興は目を見張るものがあります。

顧みても、今次の大戦で祖国の為に勇躍仕途につき異国で散った英霊は二百有余萬を数えております。苦しいながらも今日のこの平和な繁栄はひとえに御霊のお陰と感謝の念を新たにしなければなりません。

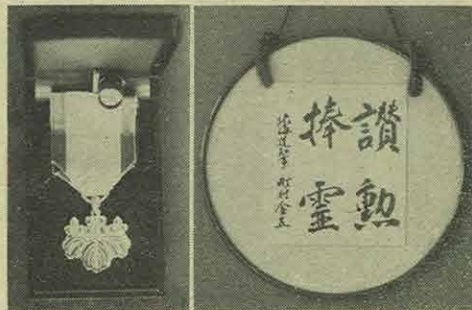
今回、戦没者に対して内閣総理大臣より勲章が、亦道知事より「讀勲捧霊」の額が贈られ、その受賞伝達式が九月三十日佐呂間社会福祉会館で行われました。当日は遺族の方全員が参列され今は亡き夫父、子らを偲びつつ、榮えある賞を受けられました。

受賞された方のお名前は次のとおりです。

叙 勲

オ二次大戦々没者四四名

川 西	中島敏夫	はつ
武 士	阿部賢治	清太郎
共 立	渡部 孝	住代
西 富	安藤一善	カメ
◎勲八等白色桐葉章		
佐呂間	菅 弘	吉蔵
若 佐	瀬木誠一	かね代
富 丘	鴻池満司	ヨロ
富 丘	今部正四郎	りよ
知 来	丹野今朝義	ウメ
◎勲八等白色桐葉章		
富 立	石川富雄	まさ
北 武	八島一恵	治郎
西 富	原 寛	ヲカ
武 士	佐々木多賀雄	トメヨ
知 来	後藤正俊	俊雄
知 来	海老名周太	さよ
佐呂間	石川己代治	トチ
知 来	佐々木保	宜英
大 成	近藤喜一	基助
浜さろま	鷺見朝雄	竹次郎
浜さろま	千葉文雄	里よう
佐呂間	十亀茂男	フミヨ
仁 倉	青野繁市	カメ
若 佐	安藤康一	良子



(勲章と記念品)

国民健康保険税

納期 11月25日

忘れずに納めましょう

佐呂間	中 園	共 立	中 園	川 西	佐呂間	仁 倉	〃	朝 日	栃 木	大 成	◎勲七等青色桐葉章	前同交付分	知 来	◎勲八等瑞宝章	佐呂間	若 佐	浜さろま	佐呂間	若 里	佐呂間	大 成
鈴木正吉	岡本 勇	十 勉	仲川 皇	高橋光義	三上定一	深尾紀政	伊 平	福田幸久	峯崎清二	青野常平	佐吉	穂積秀治	穂積秀治	内柴二郎	水次芳一	渡辺義弘	佐々木定雄	田中竹治	森 義夫	加藤恒義	
キミエ	ミサヲ	惣平	スミ子	建三	友吉	寅政	伊 平	モト	ナワ	佐吉	徳治	久太郎	カン	キヨエ	はな	昌一	円治	重義			

人の動き

世帯数	2,817
人 口	12,416
男	6,209
女	6,207

9月30日住民登録人口

(毎号綴じて保存して下さい)

佐呂間駅開駅30周年

式典盛大に行はれる

中湧別—佐呂間に鉄道が開通したのは、昭和十一年十月であれから三十年の星霜を経ております
開通に當つては幾多の変遷があり今は故人となられた方々の筆舌につくせない御苦労があつたればこそ、深く感謝と敬意を表したいと思ひます。

湧網線開通までの経過

北見地方では明治四十年、池田網走間を結ぶ網走本線が着工し、大正元年十月全線開通しているが、本町を通る中湧別、網走間の湧網線八八、八杆はそれに先立つ明治二十九年、名寄、網走間を結ぶ北海道線として第二期予定線に編入されていた、このことから明治三十三年十月、網走、常呂、紋別三郡住民の総意として、北見鉄道期成会を結成し、下湧別で第一回鉄道速成大会を開き熱心な運動を展開したのである、しかし情勢はおもしろくなく、明治四十二年八月になつて漸く鉄道院より安田、森田の両技手実地調査に來地し、翌年の第二十六回帝國議會で工費二八八万円で局部予定線に編入となりその着工が待たれたのである、ところが以前から野付牛の前田駒次を中心として運動中だつた野付牛、名寄間の一部が湧別輕便鉄道（野付牛—上湧別間）として明治四十四年兩院を通過して大正

五年に開通、引き続き中湧別名寄間も名寄側より着工して、大正十年五月に全線開通し、これが湧網線を立ちおくらせる大きな原因となつた。

そこで地元住民は中湧別開通期成会を結成し、東武代議士を迎えて具体的な運動に乗り出し、当時の高橋栄昭村長、尾崎天風等が連れ立つて出札し、北海道庁長官、札幌鐵道局長に陳情し併せて木下成太郎代議士、東武代議士に尽力を依頼した、こゝで大正十年十月、中湧別で沿線五ヶ町村の連合大会が開かれ本線促進の宣言が決議された。その時に出席された主な人は網走、松崎、豪、佐藤信吾、佐呂間村、林、由一、常呂村、尾崎天風、下湧別村、大口丑定、藤永榮、大沢重太郎、遠軽町、信太

寿之、三沢恒助、上湧別、清水彦吉、佐々木知治、井尾勇八郎他五〇数名である。

また同年十一月、全国期成同盟会に加入し網走より貴田国平、常呂より大柿千代太郎、下湧別より藤永榮、佐呂間より林由一が湧網線地方委員に選任されこの頃から村民の動きも一段と活発になつていつた。この時たまたま上京して運動中だつた貴田道會議員から「湧網線は来年着工」との電報が入り、中湧別の人々は狂喜して十二月十八日、雪の中で祝賀の提灯行列をしたところ十勝尻尾線の間違ひと判り泣き笑ひした話もあつたと聞く。

大正十二年、今年こそと意気込んで網走で連合速成大会を開催し、佐々木知治一行が上京したが、九月一日未曽有の関東大震災のために書類が全部焼失し、測量、書類作製のやり直し、これまでの猛運動は一場の夢となつてしまつた。大正十四年二月、木下代議士の手によつて第四十八回帝國議會に請願、採択となつて昭和二年八月鐵道省黒尾技手一行が測量に來地九月に全線を完了した。同月小川鐵道大臣が網走に來町すること聞き及んだ佐呂間二村浩村長は林由一を伴つて陳情し、これが動機となつて同年十二月鐵道省會議において本線の確認となつた。

昭和三年十月佐呂間において関係五ヶ町村連合大会が開催され、翌年には中湧別でと請願運動は次第に熾烈となつていつた。この時尾崎天風が同湧網線速成期成会長に就任している、そうして同年十二月鐵道省會議で湧網線を東西に分けて両方から起工し、昭和六年着工十二年完成と決定し、第五

十一回帝國議會で議決となつたのであるが、金、解禁後の緊縮政策によつて繰り延べの悲運に遭遇し村民の落胆は大きかつた。

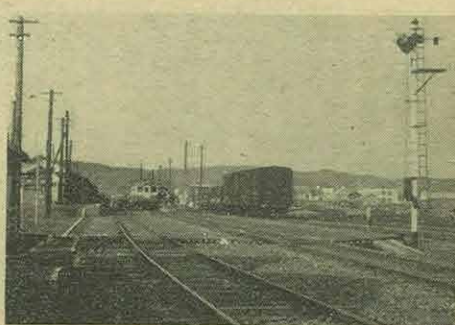
昭和六年十月、網走町有志大会を開き関係町村長が上京して運動したが、その後尾崎天風より、昭和七年着工出来る予定の電報があり、急機、十二月に中湧別で連合大会を開き、実行委員を送出して昭和七年着工すべく鐵道省に付きかけた、當時の実行委員はつぎの十五名である。

佐呂間西田村長、小澤雄次、多田茂一、後田治作、林、由一、上湧別酒井村長外四名、下湧別堀川村長外四名である。

また翌七年、庄次鐵道大臣が來道したのを機会に荒川宏力村長が陳情に赴き、さらに十一月には関係五ヶ町村実行委員が上京陳情するなど明治四三年以来二〇年の苦勞が実を結んで、昭和八年三月路線確定、同年十月工事着手、昭和十一年十月湧網西線中湧別—中佐呂間間が全通、当日中佐呂間小学校で盛大な開通式が挙行され、住民挙つてその喜びに浸つたのである



(佐呂間駅)



(現在の佐呂間駅ホーム)

湧網線全通迄の経過

中湧網線常呂、中佐呂間の請願は昭和十一年鐵道省會議を通過し、翌十二年に測量隊が入地して同十三年より工事に着手、土工、橋脚など完成し線路の敷設を待つのみとなつていつたが、不幸にも第二次大戦によつて中止となつた。その後関係町村とともにしばしば陳情、請願を重ねた結果、昭和二十一年五月、再着手の運びとなつたのも東の端、政府の方針が鐵道工事は既設施設の改良及復興に専念すると変更されたため再び、六月上旬工事中止の悲運に逢着してしまつた。そこで主務当局ではこの工事を失業救済事業に組み入れて継続実施の計画をすゝめ、七月末連合會事務局の承認を得て期待していたが、鐵道省會議は、北海道には失業者が殆んどいないと云う理由で採択されずに終つてゐる、しかし昭和二十二年二月笠井清蔵が上京し陳情懇請したところ、翌年度に実施の見込みと快報がもたらされたが好転せず、昭和二十五年、再び道知事および日本國有鐵道北海道運輸支配人への陳情となつたのである。

こうして再三にわたる陳情と根強い住民の熱意によつて、湧網線約九十杆の中間部をなす中湧網線の敷設工事はようやく二十七年八月から着工を見ることになり、この工事のため常呂町に國鉄常呂工務所が開設され、國鉄札幌工務所所長が土工工事を監督、鐵道建設工業會社、北海道軌道建設會社、札幌工業會社北拓建設會社が各種工事を請負い、全延長を二工区に分け第一工区を中佐呂間—下佐呂間一六、六〇〇米、第二工区下佐呂間—

永久選挙人名簿確定

九月三十日現在

●永久選挙人名簿

西落男		西落女		計	
西落	二〇九	二二二	四三一		
北	一九一	二二五	四一六		
東	六六	五九	一二五		
知	七九	八三	一六二		
仁	一八	一八	三六		
浜	三〇	三二	六二		
幌	九七	八三	一八〇		
武	一六	二八	四四		
富	二二	二九	五一		
共	一一	二二	三三		
大	一一	一九	三〇		
榮	八二	八〇	一六二		
中	一〇	一〇	二〇		
川	一一	一一	二二		
武	一七	一七	三四		
朝	一七	一七	三四		
富	二〇	二〇	四〇		
若	二〇	二〇	四〇		
計	三六七	三六四	七三一		

新しく出来上つた

若佐公民館



旧若佐公民館が保育所に改修され、地域住民の研修の場、憩の場がなく春以来不便をかけておりましたが、此の程、高橋土建の手で若佐公民館が完成致し十月十日関係者を招じて盛大に落成式が行われました。

この公民館は総工費九〇〇万円面積五一七、五九平方メートル（約一五七坪）の木造、モルタル、平屋建て内容は大ホール、和室（老人講話室）、会議室、図書室管理事務室放送室、炊事室等新しいセンスをとり入れて出来ており、これから部落の集り等に大いに利用されることでしょう。

本年も天候不順に見舞われ、春先からの努力の甲斐もなく、冷害と云う農家にとつては深刻な事態になつてしまつておりました。今年の作柄は水稲二分作強、麦類七分作豆類五分作強となつており、平年反収に比して金額で約四億零千五百万円の減収になつております。

冷害対策打合会議

等三〇数名による冷害対策本部を組織し、先日対策会議を開いていろいろ検討致しました。今回の折衝によつて、道より救農土木事業として、宅千八百万円（道費委託一、三〇〇万円、町費五〇〇万円）決定になり、町内延四〇数個所で冷害対策事業を行うことになりましたが、これ等の就役については自治会長を通して調査割当をしております。さらに、町有林立木伐採及び造林地拵事業を救農事業として行なうことにしております。

功労者表彰される

今年で十回を数えております功

勞者の表彰は去る三日菊の香薫る秋晴れの日に、町議会議事堂で行われまして、これは町内の自治、

冬を迎える

牧草地の管理

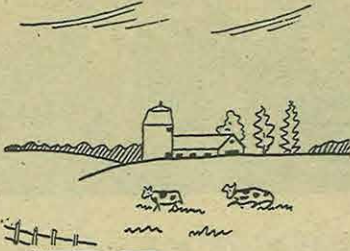
◎冬枯防止の排水作業

排水不良の牧草地は地下凍結し、早春とけるのが遅く、冬枯の原因になり、更に早春の地温上昇も遅く牧草の萌芽や生育が遅れ、従つて放牧採草の利用も遅くなるので地下水位が七〇〜九〇センチ以下になるよう排水の悪い草地は排水施設が必要です。

◎牧草地に石灰や堆肥を施用しよう

牧草類は石灰を多く含むものです。が、特にまめ科草は多いので石灰は酸性を矯正するばかりでなく肥料分としても必要です。秋牧草地に石灰を散布しておいて、早春乳牛を放牧した場合ますます石灰を散布した処から食べ始めます、また牧草地の石灰が不足してくるとまめ科草がしたいに少なくなつてくるし草の嗜好性も劣つてくるので、三年おきぐらいに一五〇〜二〇〇キロの炭カルを散布することによい、石灰の散布は早春に行うと厚かかった処は萌芽してこないで、秋、雪が降る前に散布しておくことが望ましい。古くなつて伸の悪い草地には、堆肥の散布が効果的で牧草は増収しますが、平均に細かく散布する事が仲々困難で大きな固が落ちた処は萌芽が押えられ枯死するので、また採食をきらう牛もあるので降雪前に散布しておくことのようなことがなくてよい一〇アール当り一トンの散布するのがよい。

普及所だより



貯蔵場所	発芽歩合	発芽勢
倉庫	五、四〇	七、九〇
火気の有井	三、三	三、五
コンクリート床上	三、三	三、三
土間床上	三、八	三、〇
吹貫小屋	四、五	二、五

☆馬鈴薯

貯蔵の注意については先月号を参考にして下さい。一般栽培の馬鈴薯はウィルス病の発生が多くなつております。中程度の罹病でも三〇〜四〇パーセントも減収になります。種子は三年に一度位は更

☆水稲

今年もあまり良くない作柄でした。種子物は貴重ですので貯蔵には充分注意して下さい。ネズミの

☆秋播小麦

根雪前に必ずセレンサン石灰カルベロン石灰を十アール当り三キロ〜五キロを必ず散布させよう。

昭和四十年功労者表彰式典



孝子三六名となつております。今回各部落からそれ／＼自治会長を通じて、二十数名推選されて来ておりましたが、諮問委員会で審査された結果次の九名の方々が表彰されました。

- | | |
|---|-------|
| 栄 | 大岩 文吉 |
| 若 | 阿部 文三 |
| 富 | 菅原 達雄 |
| 若 | 西 喜作 |
| 佐 | 田中 喜重 |
| 浜 | 田 好彦 |
| 佐 | 田 敏夫 |
| 呂 | |
| 田 | |
| 間 | |
| 田 | |
| 子 | |
| 敏 | |
| 夫 | |
| 節 | |
| 富 | 津田 市藏 |
| 武 | |
| 士 | |
| 野 | 野月 マサ |
| 月 | |
| マ | |
| サ | |

野そ驅除薬剤散布 ヘリコプターで 町有林一四〇町歩



選挙管理委員会委員決る

- | | |
|-----|------|
| 委員長 | 杉本 磐 |
| 委員 | 豊田好勝 |
| | 豊田通幸 |
| | 尾上 章 |
| | 山本彦平 |
| | 春木忠一 |
| 補充員 | 内藤学印 |
| | 桑原市代 |

歩け 歩け 運動

「体育の日」 参加者 四〇余名

健康な体をつくるには、適当な運動をする事が先つだいじなことです。

最近交通機関の発達で、何処へ出



かけるのも車、全身体を使わずに目的地へ着く、近い処も亦同じ、誠に結構なことですが体のためにはあまりよい状態とは云えませんが十月十日「体育の日」御承知のオリンピック開会を記念して新たに制定された祝日です。

町教育委員会ではこの意義ある日に、全町歩け、歩け運動を提唱実施しました。当日は午前七時集合軽い体操のあと所定のコースを約二時間歩きゴールインしました、今回の参加者は男女併せて四十余名でしたが、これからの機会には一人でも多く参加されて、丈夫な体をつくるよう心がけましょう。

◎踏切り事故を防ごう

◎踏切では一旦停止と安全確認は必ず実行して下さい。

一旦停止はするが、安全確認が必ずしも実行されていないようです。

◎警報機がなつたら心ならず待つて下さい。旅客、貨物、気動車等列車の種類によつて、それ

警察だより

異つていますの

で「鳴り始めたばかりだ、まだ大丈夫だろう」など憶測通過することは止めましょう。

◎一時停止は踏切内に車首を出さないように注意して下さい。

◎踏切での変速操作はやめましょう。変速操作はエンジンの原因になります、一旦停止し安全を確認したら一気に通過しま

◎踏切でエンストしたらどうするか。

あわてないで列車又は鉄道係員警察官等に知らせよう。

列車に知らせる場合は、

昼は信号えん管又は赤色旗（赤い布きれでもよい）を振つて知らせる。夜は信号えん管又は赤

色灯（懐中電灯にうすい赤色をおは

つたものでもよい）を振つて知らせる。信号えん

かんや赤色灯がない場合は、布きれを油でぬらして、これに火

をつけ、列車に向つて大きく振つてもよい。なお、列車の停止距離は、特急が四五〇米、急

行約四二〇米、普通旅客約二五〇米ですのてこれらの数字を頭

に入れて早目に知らせる事。

水が思う存分使えるなあー

栃木地区

無水供給施設工事

岸組 工費一四四万九千円

“水”平生たいして有難味を感じなく使っている。誠にしあわせなことです。しかし水のないうところは飲み水も満足に呑めない深刻なところがあります。町内でもこの様なところが十二、三ヶ所あり先に農漁家無水対策が講じられておりましたが、先月お知らせした十ヶ所が、本年工事を実施することになりました。その中で道費補助に栃木部が決り、すでに工事

公営住宅出来上る

一種十戸 二種八戸

夏以来、工事中だった西富公営住宅が出来上りました。

この公住は一種（三九、四五平方米）十戸、二種（三三、七平方米）八戸で、十一月一日選考委員会が入居者十八名が決まりました。

にかゝつております。

これは栃木第二組合の峯崎辰蔵さん外七戸で、無水に対する切実な悩みが再三の積極的な陳情になり道の無水の基準審査にパスしたもので、工事は岸組の手で行われ、十二月十日完工の予定です。附近農家の方は一日でも早く、首をながくして待つておりますがこれで今年の冬は安心して過ごせることでしょう。

ヤアー 水が出たぞ

北部落無水農家

五戸 工事終る

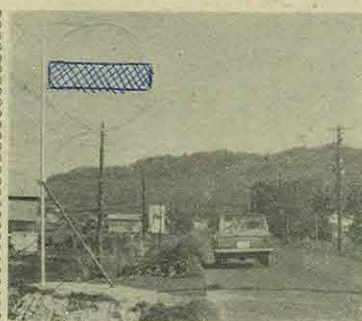
水、普段何んの有難味も感じなく使っているのが水、ところが、

交通事故ゼロえ

「交通安全宣言標識」建つ

交通戦争、非常事態宣言、世の中はあけて交通事故防止に頭をいためております。

全国的にも車の増加は目を見張る



水のない家庭は生活するのに大変な苦労があるのです。

此の程通水した、北第二部落の数軒も、長年、水がなくて随分苦労をして来ておりましたが、今回町の無水対策に対して、積極的に運動し、その苦労が報いられて町内無水農家の第一号として通水しました。

関係農家の方の喜びようは、われ／＼の想像出来ないものがありました、これから冬を迎えるのに

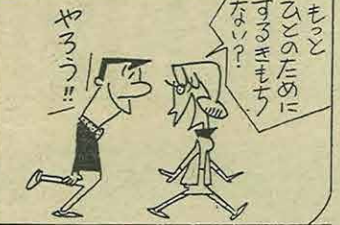
辺見栄吉さんの話



町の無水対策のお蔭で完成出来てうれし、水が出た時の感激は口では云えない位だ、長年苦勞し井戸も数ヶ所掘つたがだめだったし、夏中市街からバイクで水を運んだ程だ、家族がよろこぶし、これからい／＼が出来ます。

北のきん一家

工藤恒美



「広報さるま」は、町政のいろいろなことを知つていただくため、毎月一回発行し自治会長を通して金世帯に配付しております。みなさまの建設的な御意見や質問は庶務課広報係へお寄せ下さい。